

中 狭山ヶ丘学園 学園通信 高

狭山ヶ丘通信

狭山ヶ丘学園 WEBサイト <https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

No.206

2024(令和6)年
3月3日(日)

狭山ヶ丘学園

本校の実情をお知らせし、教育問題、社会問題等に関する本校校長小川義男の見解などをお読みいただくため「狭山ヶ丘通信」を発行いたしております。

困難多き時代を、 知性と温かさで、乗り切って行こう



校長 小川 義男

今日「天災地変」「国際的戦争」の長期化等が続き、世界の市民生活全体が脅かされようとしている。

年明けに発生した、能登半島地震の被害は深刻であり、命を失った人も多い。被災者の皆様の苦難には、言語に絶するものがある。政府、全国の支援があっても、復興に達するには、なお長期の時間と努力、支援が必要であろう。

警察、消防、自衛隊等々、様々な分野の方々の救援活動のほかに、ボランティア団体の方々も、命がけで災害復興のため戦って下さっている。これら全ての人達に、感謝と尊敬の真心を捧げたい。

能登半島地震の折には、私の住む東大和市でも、いささかの揺れが感じられた。日本は、四季折々の季節があり、食べ物が美味しい素敵な国だと思うが、世界有数の地震、津波の危険が極めて高い国でもある。災害に対処すべく、常に防寒具や水、食料の備蓄等の防災グッズの用意は、大切である。

私も備えが十分ではないので、水や寝袋、食料等の準備は、急がねばならぬと思っている。

関東は、膨大な人口を擁しており、能登半島地震とは異なる危険がある。

高層建築の場合、恐ろしいのは倒壊、停電である。現在の日本の建築技術は世界最高と言われており、耐震基準は随時見直されているが、油断はならない。また、停電した場合、エレベーターが使用できず、例えば50階まで上るのは登山に近い。限られた地上面積に、膨大な人口が多層的に居住しているのだから、能登半島地震の災害とは桁が違う被害が起こりえる。しかし、「備え」あれば危険、困難は必ず乗り越えることができるのではないだろうか。

また、最も危惧しているのは、地震に伴う火災の発生である。能登半島地震でも火災の被害が顕著だったが、最近よく耳にする「首都直下地震」が発生した場合は、世界一の消防活動も、交通網途絶の状態では対処しにくい。緊急時における火の始末。揺れを感じた際、火の元の確認は最重要

確認事項である。個人でも、消火器の準備等は、極めて有効な役割を果たすものと考えられる。

若き諸君には、特段の配慮と支援をお願いしたい。

富士山の噴火に対する安全確保も、差し迫るものと用心して、対処する必要がある。富士山は、1707年の「宝永噴火」以来300年以上も沈黙しているが、あの山が噴火した場合、溶岩流や土石流、火山灰、噴石が発生する。埼玉県まで被害があるのは、火山灰であり、それが濡れた場合は、粘着性が強く除去に苦労するとのシミュレーションもある。

既に関係機関は、噴火、大地震の場合の交通渋滞に備え、四輪駆動車は井の頭公園辺りまで走ることを許すが、他の車は、近隣地域から他地方への移動を抑制するという情報も聞いたことがある。学者は富士山噴火の危険性を、相当切迫したものと分析しているようである。

1945年に、世界的規模の戦争は終わったのだが、以後、大規模な戦争は行われていない。

しかし、ロシアのゴルバチョフ書記長が確立した、ソ連の解体、各共和国等の自立、ロシア連邦の設立を否定するかのごとく、プーチン氏の動きは、ソビエト社会主義共和国連邦の事実上の復活を目指しているのではないかとさえ思わせる。

プーチン氏のウクライナ侵攻は、世界戦争を誘発する危険がある。我が日本は、千島列島全体を不法に占領されているが、プーチン氏に、返還の意思、気配は全くない。放置すれば、我が国家そのものを侮り、彼は北海道本島を侵略し始める可能性すら、色濃く存在する。

彼との「熱い友情」で知られる、故安倍元総理が、領土奪還をどのように考えていたのかこそ、是非明らかにしたいところである。「派閥解体」どころの話ではない。

また、中東では、うっかりすると、世界的規模での「宗教戦争」が起こりかねない気配である。若者の知性、思慮、判断の下、何としても紛争が、世界戦争に拡大する危険を、防がなくてはならない。

大学入試共通テストが終わり、高校3年生は、命がけの戦いを展開している。既に、防衛医科大学校医学科に1名の合格者が出た。難関突破の足跡に敬意を表したい。

防衛大学校にも多数の合格者が出ているほか、難関私立大学にも多くの合格者が出ている。高校3年生諸君の健闘に心から敬意を表したい。まだ、これから国公立大学の合格発表を控えている、引き続き佳き知らせが届くことを楽しみにしている。

難関大学のみが大学ではない。難関も目指すが、卒業後に大学院を目指すという道もあるし、社会人として、大成を確保、確立する道もある。

要は、自分の選んだ大学、進路において、あらゆる力を尽くすということである。

世の若者諸君が、力の限り、国家、国民を擁護するという姿勢を堅持して下さることが目下、何よりも大切である。

私自身の人生を振り返って、私の人生は失敗の連続であったと思う。ただ一つ自慢できるのは、常に努力を続け、それは、今日に続いているということである。私は、この後も、何事かを成し遂げようと思っている。私に取り生徒諸君は弟子ではなく、ライバルなのである。

『礼記』に「斃れて后已む」という言葉がある。それを合い言葉にして、共に進んでいこう。

発行 / 学校法人狭山ヶ丘学園 編集 / 広報部

〒358-0011 埼玉県入間市下藤沢 981 TEL:04-2962-3844 FAX:04-2962-0656

●本校 WEB サイトにてバックナンバーもご覧いただけます。

<https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/>

WEB サイトでは、授業・部活動など学校活動をリアルタイムでお知らせしております。ぜひご覧ください。



漢詩俳句同好会

第15回諸橋轍次博士記念漢詩大会

学生の部優秀賞・奨励賞を受賞!

漢詩俳句同好会では、2023年11月12日(日)に新潟県三条市の諸橋轍次記念館で行われた「第15回諸橋轍次博士記念漢詩大会」において5名の生徒が、学生の部優秀賞・奨励賞を受賞しました。作品詳細は、本校WEBサイトをご覧ください。

学生の部奨励賞受賞

3年組
()コース

この度、新潟県三条市で行われた「諸橋轍次博士記念漢詩大会」において学生の部奨励賞を受賞しました。この漢詩大会は大修館書店「大漢和辞典」編纂という偉業を成し遂げた諸橋轍次博士を顕彰して設けられた全国的にも権威あるものです。

今回の受賞作は夏の月夜に一人で酒を飲む老人の姿を思い浮かべて詠んだものです。高校1年生の頃から漢詩創作を始めましたが、同学年の部員が受賞して行く中、今まで一度も受賞することがありませんでした。そのため、今回の漢詩大会で受賞できたことは本当に嬉しかったです。また、先生や友人からのアドバイスを受けながら漢詩創作への理解を深めることにもつながりました。

表彰式当日は他の受賞者との交流を通して知見を広げることができました。表彰式後には記念館内の庭園で開催された流觴曲水の宴にも実際に参加して埼玉県(武蔵国[武州])からやって来たことを「遠路遥遥来武州(遠路遙々武州より来たる)」の柏梁体一句で詠みました。

普段の活動では漢詩創作だけでなく「漢詩カルタ」や「漢語たはいや」などのゲームを通して、気軽に漢詩に触れることができて楽しいです。

今後とも漢詩を通じて自分の視野を広げていきます。



他の受賞者

- 学生の部優秀賞 3年組 () 「早春遊望」
- 学生の部優秀賞 2年組 () 「三伏」
- 学生の部奨励賞 3年組 () 「初冬」
- 学生の部奨励賞 3年組 () 「新晴」

作品の詳細は、本校WEBサイトをご覧ください。

<https://www.sayamagaoka-h.ed.jp/kansi2024/>



受賞作

水村夏夜

薰風渡水滿潮香
望月雲收照夜光
蕩漾釣篷回棹去
蓑翁独酌世塵忘

受賞作

水村夏夜

薰風水を渡りて 潮に満ちて香し
月を望めば雲収まり 夜を照らして光く
蕩漾たる釣篷 棹を回して去り
蓑翁独り酌みて 世塵忘る

合格体験記

東北大学工学部電気情報物理工学科合格 (総合型選抜(AOⅢ期))



近年、国公立大学でも推薦入試が増えていきます。多くは共通テストの結果と面接・小論文などを組み合わせた「総合型選抜」を取り入れています。本校では、高校での3年間の様々な活動の成果を発揮できる入試形式で挑戦する生徒も多くなっています。聖徳さんも、その一人です。

3年組

私は、東北大学工学部電気情報物理工学科に総合型選抜(AOⅢ期)で合格しました。

東北大学を志したのは、同大学大学院情報科学研究科の大関真之先生が「カズレーザーと学ぼう」というテレビ番組で、量子アニーリング技術の面白さを話されており、それをきっかけに量子コンピュータ研究に惹かれたことです。

進学にあたり量子コンピュータについて調べるにつれ、組合せ最適化問題が素早く解ける可能性や、安定した解が得られるサンプリングマシンとしての魅力にさらに引き込まれました。

量子コンピュータについて学んでいくにあたり、私が重視していきたいことは、技術研究だけでなく、実践活用についても並行して考えていくことです。日本の研究機関は、税金で研究費の多くが賄われています。そのため、研究を続けていくためには、研究者が国民に研究している技術はどのようなものなのか、またその技術は何に使われ役立つのかを正確に伝え、興味を持ってもらうことが必要だと考えています。東北大学は、「実学尊重」の理念にもあるとおり、地域の企業と協力して実践活用に取り組んでいるという点で、私のやりたいことを形にできると考えています。

量子コンピュータ研究は、まだ発展段階にあり、何に利用できるのかは具体的にはまだわかっておらず、創業や渋滞の解消、株価の変動の予測が高精度で行えることが期待され、いずれ災害時の被害を最小限、少子化対策、企業同士のイノベーションに活用されます。現在考えられている活用方法以外を創造するためには社会のニーズを知ることが重要です。そのため大学に入学してからは、幅広い知識を積極的に手に入れ貪欲に学び続けたいと思っています。

さて、今回受験した入学試験は、面接試験や小論文を重視する一般的な総合型選抜と異なり、1200点満点のうち

900点を共通テストが、残りを面接と小論文が占める、いわゆる共通テスト重視型の入試方式です。この方式の利点は主に2つあり、1つ目は、特別な入試対策が要らず、他の入試と並行して対策できることです。面接練習や小論文の練習に費やす時間が最小限で良いため、誰にでもチャンスがあるとと言えます。2つ目に、選抜にかかる期間が短いことです。東北大学では試験日の2日後に結果が出るため、とてもスピーディーで精神的負担が軽いです。一方で、私立大学の入試日程と重なって、2月前半が忙しくなることから、入試時期に受験をする(連続して試験を受けることや、その移動・宿泊などに係わる)体力が重要です。学習量も当然重要なのですが、やはり最終的には心身の健康が重要な鍵です。

私は受験にあたって、緊張の「飼い慣らしかた」を覚えました。入試で全く緊張をしない人はいません。そのため緊張を「なくす方法」を考えるのではなく、緊張に「慣れる」方法を探すが賢明です。私が実践したことは2つあります。

まず、普段通りの自分を演じることです。そのために朝何時に起きるのか、昼食は何を食べるのか、電車に乗っている時間は何をやるのかなどのルーティーンを決めることが有用です。自分が落ち着ける「いつも通り」を作り、緊張していても外見は普段通りを心がけることが効果的でした。

次に、根拠のない自信を持つことです。自分のことを考えると、弱点ばかり見えますが、自分は(なぜか)大丈夫、何とかなる、と信じて疑わない。自信が持てなくても、自信を持っていると装うことで気持ちが楽になります。

受験生は皆できる限りの努力をして入試に臨んでいるため、取り組むべきことはいつもの実力を発揮する方法身につけることです。「人事を尽くして天命を待つ」。重要なのは、その「天命」を見逃さない準備を、学力もメンタルも万全にしておくことだと思います。